



十六銀行

十六アジアレポート 2020年7月号

JUROKU ASIA REPORT JULY 2020

2020年7月1日 発行

十六銀行 法人営業部 海外サポート室

目次

1. タイ:「経済を優先すべきか、感染防止を優先すべきか」 バンコク駐在員事務所 堀江幸康
2. ベトナム:「アフターコロナ『第1弾は国内旅行の巻き返し』」 ハノイ駐在員事務所 川瀬寛之
3. 上海:「コロナ禍でコスパ重視! 売れ行き好調な日本の車」 上海駐在員事務所 村瀬範晃
4. シンガポール:「緩和が先行する周辺国の現況」 シンガポール駐在員事務所 富田邦裕
5. 為替相場情報

本書中の情報は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては全てお客様御自身でご判断くださいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行及び執筆者はその正確性を保証するものではありません。また、本書中の情報は、法律上、会計上、税務上の助言を含むものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談ください。

1. タイ:「経済を優先すべきか、感染防止を優先すべきか」

バンコク駐在員事務所 堀江幸康

タイ王国保健省が6月8日から14日にかけて実施した「新型コロナウイルスの感染予防に対する意識調査」によれば、5月に行った同調査と比較して、「定期的に手を洗う」が87%から83%へ、「社会的距離（ソーシャルディスタンス）を確保する」が65%から60%へとそれぞれ低下しており、感染予防の意識は徐々に薄れていることが判明しています。しかしながら、「マスクを着用する」という項目については91%と、前回調査と同様に90%台を維持しており、多くの方々がそれを実践していることが窺えます。

■マスクやフェイスシールドは必需品に。

タイ王国は雨季を迎え、以前より涼しくなりましたが、それでも気温は連日30度を超え、蒸し暑い日が続いています。BTSスカイトレインやバスを利用する際や、ビルや商業施設に入る際など、あらゆる施設内でマスクの着用が義務付けられていることもあり、道行くほぼ全てのタイの方々がマスクをしています。こうなると、私たち駐在員もマスクをせざるを得ない状況になってきます。

タイ王国保健省からは、「ウォーキングやジョギングの際には、熱中症の恐れがあるのでマスクをする必要はない。」との発表がされており、一応、外を歩く際にはマスクをする必要はないはずなのですが、『同調圧力』というものでしょうか、周りの方の視線が気になってしまい、蒸し暑いところを我慢してマスクをしています。

また、飛沫感染を防止するためにマスクの他に透明なフェイスシールドを着用されている方も多く見掛けるようになりました。バンコクの観光名所エラワン廟では、ダンサーの方がフェイスシールドを着用してタイ舞踊を披露されていました。受付の方にお話を伺うと「タイ舞踊は表情が非常に大切です。ブラフマー（ヒンドゥー教の神様）に舞踊を奉納する際、口元を隠すのは良くないと考えて、マスクは着用せずにフェイスシールドをしています。」とのこと。日本とは違う『微笑みの国』タイ王国ならではの発想だと感心させられました。

■タイ政府は今後難しい判断を迫られることに…。

こうした感染予防への取り組みも功を奏してか、タイ王国では国内での感染（市中感染）がゼロの状況が続いています。段階を追って規制が緩和されており、7月以降は海外からの入国・入境規制を緩和させる動きが加速していくことも予想されます。ただ、タイの方々は、外国からの旅行者などの受け入れには強い抵抗感を持っているようです。

タイ国立ラチャパット大学が実施した調査によれば、「外国人旅行者の受け入れを再開すべきではない」と回答した人が全体の54.4%に上っています。また、最近の新規感染者はタイ国外からの帰国者（留学生・駐在員）や隣国からの不法入国者で占められており、「国外は依然として危険だ」との印象が強くなっています。

昨年3月の下院総選挙を経て、一応の民政化を果たしたとされるタイ政府は、政権運営上このような国民の声を無視することができません。経済を優先すべきか、国内の感染防止を優先すべきか、タイ政府は今後非常に難しい判断を迫られることになりそうです。



バンコクの観光名所『エラワン廟』で、タイ舞踊を披露するダンサーたち。フェイスシールドを着用している。

2. ベトナム:「アフターコロナ『第1弾は国内旅行の巻き返し』」

ハノイ駐在員事務所 川瀬寛之

コロナの早期封じ込めに成功したベトナムですが、未だ収束の目途が立っていない海外からの観光客は暫く見込めません。私が住むハノイの街もどこことなく寂しさを覚えます。ベトナム文化・スポーツ・観光省によれば、5月の観光収入は前年同月比で90%減少し、年2桁成長を長年続けてきた航空市場も壊滅的な打撃を受けています。こうした中で、頼みの綱となっているのが国内旅行の活性化です。

■積極的な観光プロモーションを実施

6/26～28に開催された「ハノイ市文化・観光PR」イベントを見学しました。観光業の巻き返しを図るべく会場前では、ベトナム航空（国営航空会社）やベトジェットエア（格安航空会社）などが割引券を販売していました。そして会場内では、「信念を持ってコロナと戦い、勝利したハノイ」と銘打った写真展が催され、そこには「医療者・軍兵たちの奮闘ぶり」や「隔離された人々の生活の様子」などが写し出されていました。緊迫した状況の中で必死に助け合う人々の様子がとても感動的でした。みんなで力を合わせて苦境を乗り越えた「ハノイの観光促進」を願います。



ハノイ市文化・観光PRイベント会場内での写真展

次に、ハノイ市内の旅行代理店を訪れました。2月末～4月末の2ヶ月間休業した後、現在は国内ツアーの販売を再開しているものの、売上高は前年同期比で60%程度に落ち込んでいるそうです。国内観光客を誘致するために、航空会社や大手ホテルと連携して、20～40%のツアー割引を実施することで巻き返しを図っています。

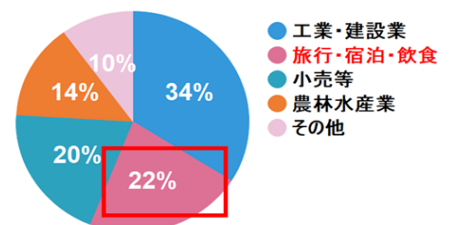


ハノイ市内の旅行代理店にてインタビュー

■ベトナム GDP に大きく影響する観光関連産業

旅行・宿泊・飲食、いわゆる観光関連産業がベトナム GDP に占める割合は22%と少なくありません。海外からの旅行者数として世界1位を誇る中国に対し、日本よりも1ヶ月早く入国禁止にしたベトナムの経済損失は甚大です。また、発展途上国が医療崩壊を防ぐためには水際対策の強化を継続していかなければなりません。こうしたことから、ベトナム政府が今最も力を入れていることは国内旅行の活性化であると言っても過言ではありません。

GDPに占める旅行・宿泊・飲食の割合



(出所) ベトナム統計総局/2019年データ

■最後に

学校の夏休みを目前に控え、各地域が積極的な観光プロモーションを行っています。例年、国内家族旅行が増加する期間が7～9月となります。各リゾート地に加え、世界4位の利用者数を誇るハノイーホーチミン間の航空便の利用促進もカギを握ります。観光業は苦難の年となりますが、コロナ封じの優等生ベトナムの底力に期待したいと思います。

3. 上海:「コロナ禍でコスパ重視! 売れ行き好調な日本の車」

上海駐在員事務所 村瀬範晃

中国では新型コロナウイルス感染拡大の影響により、特に春節以降は外出自粛要請等もあったことで、人やモノの動きが止まり、大きな経済的ダメージを受けました。自動車の新車販売台数においても例外ではなく2020年2月は特に大きく落ち込み、今後の消費動向が不安視されていました。しかし、徐々に売れ行きは回復し、2020年5月には対前年同月比+20.1%にまで至るほどの回復が見られました。今月は実際の新車販売状況等を聞き取りすべく、先方にご了承のうえ『レクサス上海東昌店』にて営業担当の方にインタビューをしてまいりましたので、その様子をお伝えしたいと思います。

一 こちらの店舗はいつ頃から営業を始められましたか。

●営業担当 張氏(以下、敬称略) 2006年10月にレクサスが正式に認定した中国初の販売店としてオープンし、今年で14年目です。



【レクサス上海東昌店】

一 どういったお客様が来店されますか。

●張 20歳から60歳まで幅広いお客様がおられます。男女比率としては6:4ほどです。職業は主に、医師、公務員、警察官、ホワイトカラーの方が多くおられます。新規のお客様よりも既存のお客様のリピーターが多く、リピート率も50%以上となっています。また、既存のお客様からお知り合いの方を紹介していただくケースも多くあります。



【店舗カウンターと張氏】

一 5月の「トヨタの新車販売台数」は前年比20%増の16万6千台で、レクサスも前年比35%増の2万1千台とのことですが、コロナ禍においてもトヨタ車がよく売れているのはなぜでしょうか。

●張 まずトヨタは古くから中国で販路開拓をしていたので、知名度が高いです。そして競合する他国の自動車メーカーと比べると、高品質で燃費がよく値段も安く、4年以内・10万km以下は無料で修理を受けられる等のアフターサービスも充実しています。品質がいいため基本的なメンテナンスをするだけでよく、大きな修理をするコストがかからないのも魅力のひとつです。結果、お客様が売却する際にも高価格での買取りとなります。またベンツやBMW等のドイツメーカーは中国企業との合弁会社で製造しているのに対して、レクサスは全て日本から輸入している『純日本製』



【インタビューの様子】

である点も重要な要因です。なお、当店の販売台数も対前年同月比+30%以上で推移しています。

■所見

新型コロナの影響で消費が落ち込み、先々の見通しが立ちにくい局面であるからこそ、車選びはよりシビアで合理的思考になり、そんな時ほど、車輛寿命が長く耐久性に優れ、経済的かつ実用的である日系自動車メーカーの人気が出るのだと張氏は言います。日本が誇る、高品質のものづくりやきめ細かなサービスは、世界中どこにでも十分通用するものであり、コロナ後の世界においてもこれまで以上に求められるものであると感じました。

4. シンガポール:「緩和が先行する周辺国の現況」

シンガポール駐在員事務所 富田邦裕

シンガポールでは新型コロナの市中感染が落ち着き、6月19日からようやく飲食店の店内飲食が可能となったほか、小売店が再開しました。集まりは5人までとされていますが、段階的緩和直後の週末は飲食店の多くで混雑がみられました。今回は周辺国の現況もお伝えしたいと思います。

約2ヶ月半ぶりに、お店が再開するということもあり、最初の週末は、街に活気が戻っていました。早速屋台が集まるホーカーセンターでも、大変心待ちにしていた住民が「ハッピーフェーズ2」といいながらお酒で再開を祝う光景も見られました。そもそもこれまで他人とは会えませんでしたので、「人に会えること」が一番嬉しいのだと思います。日系飲食店にも行列ができ、日常が戻ってきた感じです。なおオフィス街は静かなままでした。政府は現在も可能な限り在宅勤務を要請しており、金融街の人通りや車の数は少ないと感じました。



【段階的緩和直後、週末の街中の様子】

緩和については、弊行のお客様が多く進出しているインドネシアやフィリピンでも進んでおります。ただし上記2国は右の図の通り感染者数が増加しているなかで規制緩和が図られており、経済を再開しないと失業増加が止まらないといった状況のようです。コロナによる死者も多く、医療体制も心配です。公表された人数は正しいのか、規制緩和が中途半端、と規制も緩和もどちらに対しても厳しいお客様の意見もありました。街中の状況はモールが6月中旬から再開し、店内飲食も徐々にできるようになっており、交通量も戻りつつあるなど人々が街に出てきています。治安については、失業者が増えているなかですが、直接外国人が被害に会ったとのニュースは最近聞かれず、「通常通りの悪さ」とのことでした。

【6月25日時点の感染者数】			(単位:人)
	累計感染者	現在の感染者	死者
インドネシア	50,187 (23,714)	27,118 (9,566)	2,620 (1,007)
シンガポール	42,736 (7,852)	6,298 (▲7,318)	26 (3)
フィリピン	33,069 (15,845)	22,947 (10,481)	1,212 (262)
マレーシア	8,600 (781)	208 (▲1,143)	121 (6)

*カッコは5月末との比較

特にインドネシアは自動車の販売や製造台数が単月ベースで大きく落ち込んでおり、製造業の需要が回復するには、二輪が早くて第4四半期、四輪は来年以降という見方です。従業員の出勤についてお聞きしたところ、シフトを組んでいる企業が多いなか“社外での感染リスクの方が高く、会社にとどめた方がリスクが減るので通常出勤している”との回答もありました。現在実施している大規模社会的制限とよばれる規制が7月上旬に打ち切られるかどうかポイントになりそうです。フィリピンも中心部のメトロマニラで6月1日から外出移動制限を緩和しているのに対し、セブ島は隔離施設に余裕がなく規制が強化されている状況です。同国も製造業は再開していますが、輸出向けを中心に稼働率は60%強が多く、今後フル稼働に向かっていくとのことでした。両国に駐在する方からは、政府が緩和をしている中で、自分で自分を守り防ぐしかないといった声がありました。

いずれにしてもシンガポールや上記周辺国において、日本からの短期滞在者に対する渡航制限の緩和は見通しが立っていません。再開までに長い道のりとなりますが、既にウィズコロナの時代に向けてオンライン化の動きが活発化しており、今後も取組み内容を紹介していきたいと考えています。

5. 為替相場情報

(1) 人民元一円為替相場(中国人民銀行公表仲値)

(単位:1人民元当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
5月25日	15.13111	5月26日	15.11008	5月27日	15.11784	5月28日	15.11624	5月29日	15.10004
6月1日	15.10711	6月2日	15.11396	6月3日	15.29964	6月4日	15.35037	6月5日	15.38414
6月8日	15.47006	6月9日	15.34590	6月10日	15.24739	6月11日	15.15266	6月12日	15.05752
6月15日	15.13615	6月16日	15.18349	6月17日	15.14853	6月18日	15.08000	6月19日	15.08591

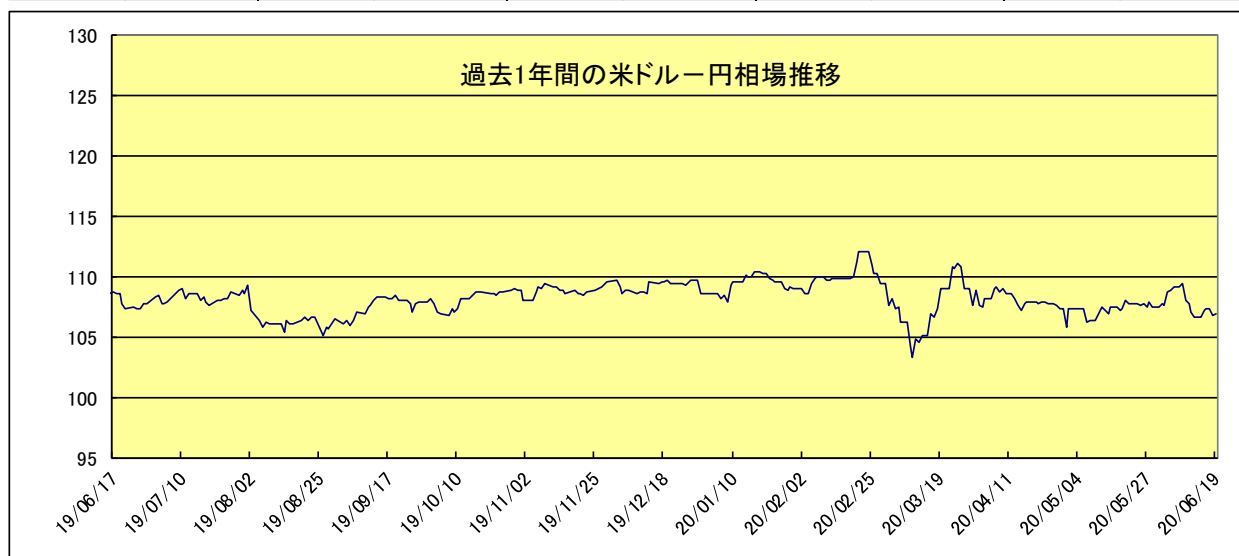


上記表、及びグラフはこの公表仲値を便宜的に1人民元当たりの日本円へ換算し直した相場です。
そのため、正式な人民元相場が必要な場合は、中国人民銀行にお問い合わせ下さい。

(2) ドルー円為替相場(当行公表仲値)

(単位:1ドル当たりの日本円)

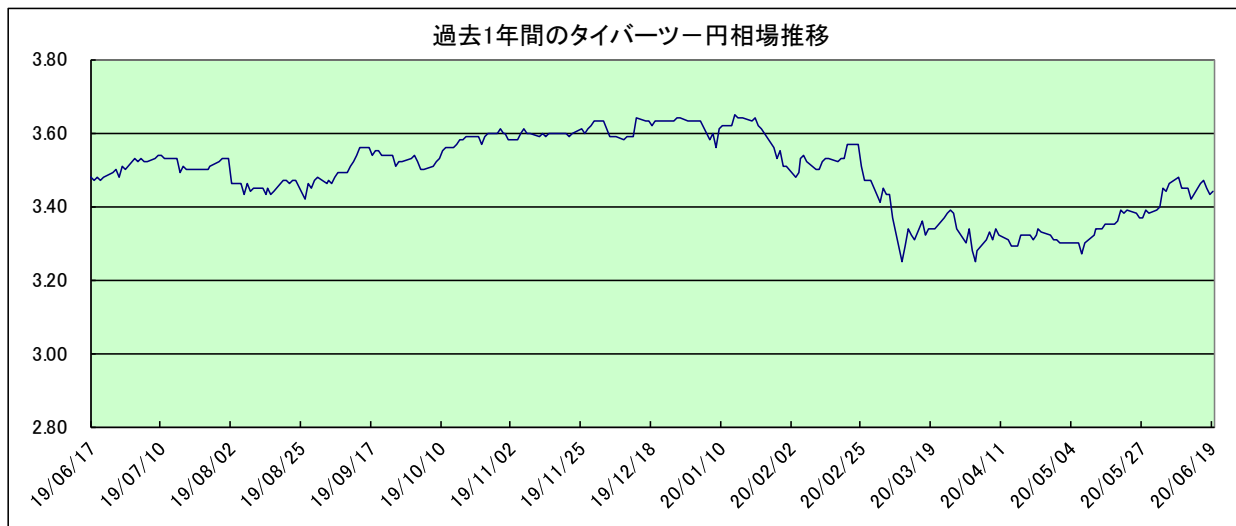
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
5月25日	107.65	5月26日	107.77	5月27日	107.51	5月28日	107.92	5月29日	107.53
6月1日	107.74	6月2日	107.58	6月3日	108.72	6月4日	108.88	6月5日	109.09
6月8日	109.48	6月9日	108.08	6月10日	107.79	6月11日	107.01	6月12日	106.69
6月15日	107.24	6月16日	107.32	6月17日	107.35	6月18日	106.78	6月19日	106.95



(3) タイバーツ-円為替相場(当行公表仲値)

(単位: 1バーツ当たりの日本円)

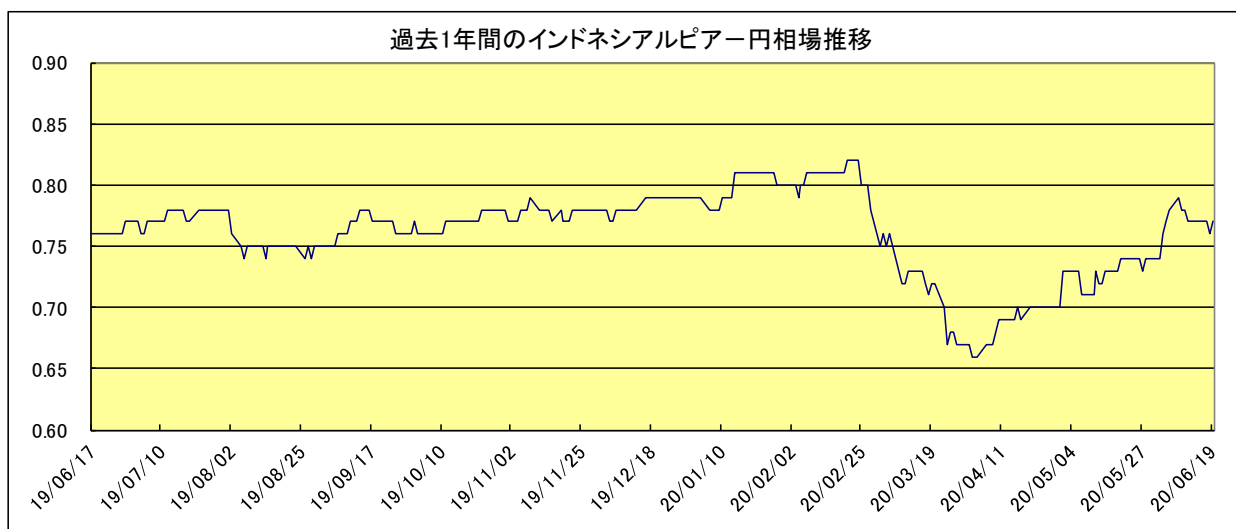
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
5月25日	3.3800	5月26日	3.3700	5月27日	3.3700	5月28日	3.3900	5月29日	3.3800
6月1日	3.3900	6月2日	3.4000	6月3日	3.4500	6月4日	3.4400	6月5日	3.4600
6月8日	3.4800	6月9日	3.4500	6月10日	3.4500	6月11日	3.4500	6月12日	3.4200
6月15日	3.4600	6月16日	3.4700	6月17日	3.4500	6月18日	3.4300	6月19日	3.4400



(4) インドネシアルピア-円為替相場(参考値)

(単位: 100ルピア当たりの日本円)

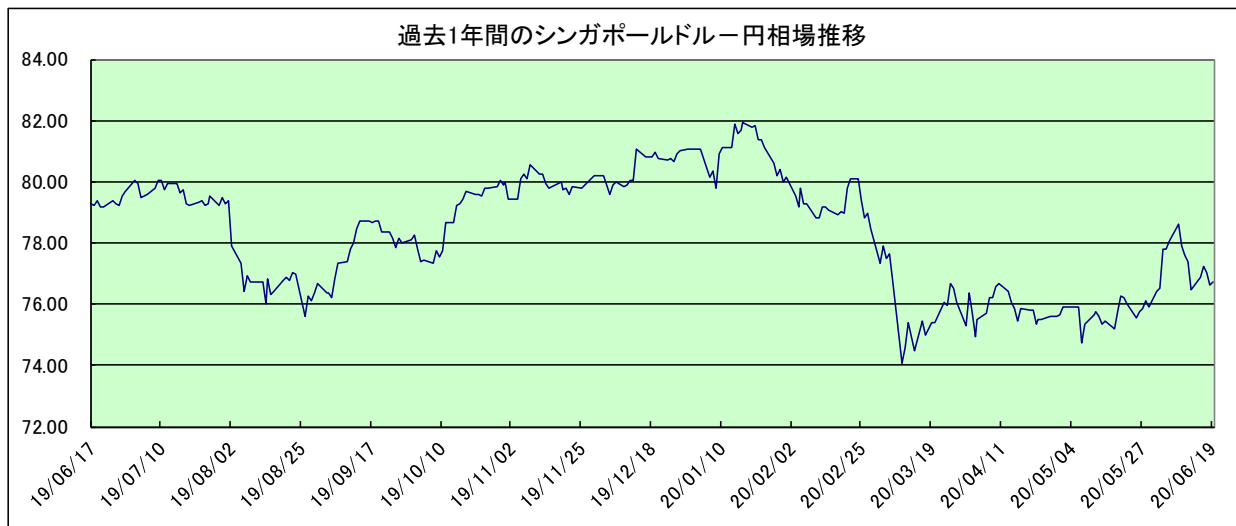
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
5月25日	0.7400	5月26日	0.7400	5月27日	0.7300	5月28日	0.7400	5月29日	0.7400
6月1日	0.7400	6月2日	0.7400	6月3日	0.7600	6月4日	0.7700	6月5日	0.7800
6月8日	0.7900	6月9日	0.7800	6月10日	0.7800	6月11日	0.7700	6月12日	0.7700
6月15日	0.7700	6月16日	0.7700	6月17日	0.7700	6月18日	0.7600	6月19日	0.7700



(5) シンガポールドル－円為替相場(当行公表仲値)

(単位:1ドル当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
5月25日	75.5300	5月26日	75.7500	5月27日	75.8500	5月28日	76.1200	5月29日	75.8900
6月1日	76.4300	6月2日	76.5000	6月3日	77.8000	6月4日	77.8000	6月5日	78.0700
6月8日	78.6300	6月9日	77.9000	6月10日	77.5900	6月11日	77.4000	6月12日	76.4800
6月15日	76.8600	6月16日	77.2400	6月17日	77.0100	6月18日	76.6000	6月19日	76.7200



(6) ベトナムドン－円為替相場(参考値)

(単位:1000ドン当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
5月25日	4.6200	5月26日	4.6200	5月27日	4.6100	5月28日	4.6200	5月29日	4.6100
6月1日	4.6200	6月2日	4.6200	6月3日	4.6700	6月4日	4.6800	6月5日	4.6800
6月8日	4.7000	6月9日	4.6500	6月10日	4.6400	6月11日	4.6100	6月12日	4.5900
6月15日	4.6200	6月16日	4.6200	6月17日	4.6200	6月18日	4.6000	6月19日	4.6000

